

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F117310105497	設置等組織名	情報工学部
大学名	金沢学院大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	石川県	事業計画名	金沢学院大学 情報工学部の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	(フェーズ2からのため対象外)			
	(なし)			
認可申請又は届出	令和4年度末に認可申請	令和5年3月15日認可申請書提出 令和5年9月4日設置認可 令和5年9月25日収容定員変更関係学部変更届出		
フェーズ1後倒し	(フェーズ2からのため対象外)			
	令和5年9月～情報工学部開設のため2号館改修(4階) 令和5年9月～令和7年3月情報工学部棟建設のための新校舎設計 令和5年12月情報工学部のため2号館4階改修(AC+LAN敷設,内装) 令和6年2月情報工学部のため2号館および2号館B棟工事等(LAN,分電盤,無線延伸) 令和6年3月情報工学部のため2号館備品等設置	令和5年9月～情報工学部開設のため2号館改修(4階) 令和5年12月情報工学部のため2号館4階改修(AC+LAN敷設,内装) 令和6年2月情報工学部のため2号館および2号館B棟工事等(LAN,分電盤,無線延伸) 令和6年3月情報工学部のため2号館備品等設置	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
開設又は定員増	令和6年4月 情報工学部情報工学科開設(入学定員100名、編入学定員なし、工学関係)	令和6年4月 情報工学部情報工学科開設(入学定員100名、編入学定員なし、工学関係)		
フェーズ2後倒し	令和7年10月情報工学部のため新校舎着工(新校舎建築工事(初年度)の実施) 令和8年4月(新校舎建築工事(2年目)の実施) 令和9年2月情報工学部のため新校舎竣工 令和9年3月情報工学部のため新校舎備品等設置 令和9年4月情報工学部のため新校舎供用開始	令和7年5月～令和7年12月情報工学部棟建設のための新校舎設計(R7.3.24承認) 令和8年1月情報工学部のため新校舎着工(新校舎建築工事(初年度)の実施)(R7.3.24承認) 令和8年4月(新校舎建築工事(2年目)の実施) 令和9年3月情報工学部のため新校舎竣工及び情報工学部のため新校舎備品等設置(R7.3.24承認) 令和9年4月情報工学部のため新校舎供用開始	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	令和6年4月情報工学部生対象「令和6年度新入生入学時調査」の実施(以降毎年度4月実施) 令和6年7月情報工学部生対象「令和6年度前期未調査」の実施(以降毎年度7月実施) 令和6年8月情報工学部について産業界と意見交換の実施(以降毎年度8月実施) 令和6年9月情報工学部企画戦略会議(学内)の実施(以降毎年度9月、3月実施) 令和7年1月情報工学部生対象「令和6年度学年末調査」の実施(以降毎年度1月実施) 令和7年2月情報工学部について自治体と意見交換の実施(以降毎年度2月実施) 令和7年10月情報工学部のための高校生進学ニーズの動向調査(北陸地域対象) 令和9年4月情報工学部のため新校舎供用開始 令和10年2月情報工学部主催のデジタル人材育成についてのシンポジウム開催	令和6年4月情報工学部生対象「令和6年度新入生入学時調査」の実施 令和6年7月情報工学部生対象「令和6年度前期未調査」の実施 令和6年8月情報工学部について産業界と意見交換の実施 令和6年9月情報工学部企画戦略会議(学内)の実施 令和7年1月情報工学部生対象「令和6年度学年末調査」の実施 令和7年2月情報工学部について自治体と意見交換の実施 令和7年10月情報工学部のための高校生進学ニーズの動向調査(北陸地域対象) 令和9年4月情報工学部のため新校舎供用開始 令和10年2月情報工学部主催のデジタル人材育成についてのシンポジウム開催	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ3			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止				

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。				
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック				
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	事前の高校生への進学意向アンケートにおいては十分な志願者・入学者が見込める回答を得ており、初年度ということもあり入念な計画のもと学生募集を実施した。しかし、1月1日に発生した石川県能登半島地震により、県内の入試情勢に少なくない変化がもたらされたため、当初の計画通りの結果とはならなかった。令和6年度は令和7年度にむけた情報工学部学生確保に向けて、より一層の周知を図るとともに、高等学校との連携を強化し、高等学校が主体で実施するDX/ハイスクール事業に積極的に関わることで、地域の理系人材育成を担う学部としての存在感をアピールする予定としている。			
	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）				
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。				
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部情報工学科では、学生の自主的かつ主体的なキャリア形成力を養成するため、体験型のキャリア教育科目として「就業体験（インターンシップ等）」を配置する。これは、企業等において一定期間、実際の業務を体験し仕事や職業に対する理解を深め、自己の職業適性や職業選択について深く考察し社会人として活躍していく基盤を形成する。特色として、本学の位置する北陸における自治体・企業にて就業体験ができる機会を設ける。本科目を通じて、地域が抱える課題について認識を深め、さらに組織の一員として課題に取り組む体験から地域産業に貢献するために求められる能力や人間性についての理解を深め、自己の成長に主体的に取り組むことを目指す。科目担当者や就職支援部が責任窓口になり、実習先組織と実習期間中および事前・事後の連携（「事前研修」（意識付けおよび実習先組織についての理解）、「業務日報」等の指導・評価等）を実施する。既存学部の令和4年度の実績において102組織の実習先を確保している。今後、情報工学部と目的が適合する北陸地域の自治体、企業等をさらに抽出・開拓するとともに、IT系企業や企業等の情報システム部門を中心として、連携開拓を継続的にこなす計画である。	令和5年度は開設前であるため、未実施である。今後入学する学生らの想定される進路を鑑み、現状においてはコンピュータ工学分野とデータサイエンス分野の学びと直結する職種を持つ企業等との接点開拓を進めている。近隣自治体および産業界との協議を重ねる中でデジタル人材のニーズの層の高まりを確認する一方で、就業体験等を実施するタイミングについて慎重に議論している。	特に無し

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部は本学にとって初の理系学部となるため、入学者選抜における科目については数学と英語、そして論理的思考に重きをおく理科目として物理と化学を重視する他、その出題範囲についても数IIIを含むなど、競合校とは一線を画した試験科目とする計画である。そして、女子学生の確保のため学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜に10名程度の女子枠を設定する。また、情報工学部の女子学生の学習をサポートし、ロールモデルとなる女性教員を組織に加える予定である。さらに継続的な理系人材の育成を目的に、周辺地域の中学校・高等学校を主な対象として、情報工学部教員による出張授業や、学生によるワークショップ・研究成果発表等を実施することを計画している。特に本学附属中学校および附属高等学校とは連携を密とした学習・交流に取り組む計画である。社会人の受け入れについては、専願制の社会人推薦枠を設ける他、石川県商工労働部と協働でリカレント教育プログラム開発を進めており、今後の検討材料として、プログラムの一部試験実施を令和5年度に実施する予定としている。	情報工学部の入学者選抜における科目については数学、英語、物理、化学を重視した他、その出題範囲についても数IIIを含め実施した。学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜に10名の女子枠を設定し、その旨を公表した。また、情報工学部の女子学生の学習をサポートし、ロールモデルとなる女性教員が令和6年度より着任予定である。周辺地域の中学校・高等学校を主な対象とする出張授業については、情報工学部着任予定教員らが本学附属中学校および附属高等学校を含む近隣の学校を訪問し、直接ニーズの聴取を行ったうえで現在は具体的なプランについて協議を開始した。社会人の受入については専願制の社会人選抜を設けて公表した他、石川県商工労働部と協働でリカレント教育プログラム開発を進めた。	近隣の高等学校を訪問し、各校の進路担当教諭等にヒアリングを行う中で、入試科目の内容について、成長分野の人材育成の観点においてはその必要性に強い賛同が得られたものの、理系人材の拡充を目的とした受験生確保の面で懸念の様子もみられた。これについては今後、実際の入試データおよび入学生生の状況について分析を行い、必要であれば随時見直しを図っていく。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。				
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック				
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	初年度の入学生は定員100名に対して36名に留まった。令和6年度、その反省を受けた学生募集をDXハイスクールによる連携校を中心に進めることにより、令和7年度の入学生は55名へと増加した。しかし、定員の100名には達していない。その理由は、令和6年度の取り組みは、主に高校2年生、1年生に対するものであったためだと考えている。令和7年度には取り組みの効果が現れ、定員確保ができると考えている。令和6年度の取り組みにより、本学部の認知度が上がっていることから、この取り組みを継続することに加え、オープンキャンパスなどの従来の取組において在学生在が高校生に向けて情報工学部の魅力を伝えることにより、安定して定員の確保が出来るようになる。			
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック				
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組み計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑧	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑨	入学定員が20名以上増加する計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑩	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑪	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				
⑫	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。				
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック		
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック				

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部情報工学科では、学生の自主的かつ主体的なキャリア形成力を養成するため、体験型のキャリア教育科目として「就業体験（インターンシップ等）」を配置する。これは、企業等において一定期間、実際の業務を体験し仕事や職業に対する理解を深め、自己の職業適性や職業選択について深く考察し社会人として活躍していく基盤を形成する。特色として、本学の位置する北陸における自治体・企業にて就業体験ができる機会を設ける。本科目を通じて、地域が抱える課題について認識を深め、さらに組織の一員として課題に取り組む体験から地域産業に貢献するために求められる能力や人間性についての理解を深め、自己の成長に主体的に取り組むことを目指す。科目担当者と就職支援部が責任窓口になり、実習先組織と実習期間中および事前・事後の連携（「事前研修」（意識付けおよび実習先組織についての理解）、「業務日報」等の指導・評価等）を実施する。既存学部の令和4年度の実績において102組織の実習先を確保している。今後、情報工学部と目的が適合する北陸地域の自治体、企業等をさらに抽出・開拓するとともに、IT系企業や企業等の情報システム部門を中心として、連携開拓を継続的にこなす計画である。	令和7年度には「就業体験（インターンシップ等）」への参加を念頭に置き、2年生に対して就職への意識づけの機会を設ける予定である。その際、本学基礎教育機構の松田和也准教授の株式会社リクルート在職中の経験、および本学情報工学部岩岡浩一郎教授のパナソニック コネクスト株式会社に在職中の経験などを活かし、受講生に就職に対するイメージを固め、スムーズに企業や自治体と連携し、社会に自分の場所を見つけられるサポートをすることとしている。	特に無し

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部は本学にとって初の理系学部となるため、入学者選抜における科目については数学と英語、そして論理的思考に重きをおく理科目として物理と化学を重視する他、その出題範囲についても数IIIを含むなど、競合校とは一線を画した試験科目とする計画である。そして、女子学生の確保のため学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜に10名程度の女子枠を設定する。また、情報工学部の女子学生の学習をサポートし、ロールモデルとなる女性教員を組織に加える予定である。さらに継続的な理系人材の育成を目的に、周辺地域の中学校・高等学校を主な対象として、情報工学部教員による出張授業や、学生によるワークショップ・研究成果発表等を実施することを計画している。特に本学附属中学校および附属高等学校とは連携を密にした学習・交流に取り組む計画である。社会人の受け入れについては、専願制の社会人推薦枠を設ける他、石川県商工労働部と協働でリカレント教育プログラム開発を進めており、今後の検討材料として、プログラムの一部試験実施を令和5年度に実施する予定としている。	情報工学部の入学志願状況、および北信越の高校訪問を実施した結果を踏まえ、令和6年度より数学の出題範囲に含まれる数IIIを選択制とした。また令和7年度より理科目から化学を外し、「物理」あるいは「物理基礎・化学基礎」からの選択とする予定である。これらにより、従来の論理的思考に重き置く方針を堅持しつつ、多様な高校生を広く受け入れることが可能となると考えている。今年度女子枠を使って入学した学生が1名おり、中高の数学および情報の教員取得を目指して勉強しているところである。今後、この事例も含めて女子学生の活躍を広く周知し、女子学生の確保を通じて、志願者数増に結び付けたいと考えている。石川県内及び隣接する県外の高校とは、すでにDXハイスクールに関連して、情報工学部の教員が高校に赴向してまたは本学に迎えて情報に関する授業を多数実施している。令和6年度に石川県内の小学校からの要請に基づき6年生対象に出張授業を実施したほか、今後は本学附属中学校においても出張授業の実施を検討していることから、その実績を踏まえて地域の初等中等教育段階の学校とも連携を進める計画である。社会人の受け入れについては、昨年度を取組を継続し、プログラムの実施に向けた準備を進める予定としている。	近隣の高等学校を訪問し、各校の進路担当教諭等にヒアリングを行う中で、入試科目の内容について、成長分野の人材育成の観点においてはその必要性に強い賛同が得られたものの、理系人材の拡充を目的とした受験生確保の面で懸念する様子もみられた。その情報および実際の入試データおよび入学生の状態について分析を行い、左記の入試科目の再設定を行った。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項（R6年度）	○石川県能登半島地震による影響は考慮されるものの、R6年度入学定員充足率が0.36倍（情報工学部情報工学科）と著しく低くなっている。より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。	<p>令和6年度は、本学情報工学部における志願者が増加するよう年度初めより学生募集活動を実施した。オープンキャンパスについては13回開催し、その中で体験授業や学部独自の取組等を説明するなど、高校生の興味をひく内容を教員が入念に準備し、開催した。また、令和5年度にはなかった保護者説明会や入試対策講座、授業紹介など、オープンキャンパスでの内容を再考し実施した。その他、相談会を2回開催するなど、高校生に本学の取組をよく知ってもらう機会を増やしている。</p> <p>令和5年度は本学初の理工系学部としてデジタル人材育成を目指し入学受入の想定学力水準を高く見積もった学生募集計画を展開しており、これに伴い当初から推薦選抜等の年内入試よりも、年明けの一般選抜を主軸に入学者確保を目指したが、入学定員を満たすことができなかった。そのため令和6年度は年内入試でより多くの受験生を集めるよう方向転換を図ると同時に、入試科目の設定を見直すことにより、一般選抜を受けやすいように変更を行い、学生確保を図った。その結果、令和7年度入試状況は、総合型選抜の志願者については初年度の9人から大幅に増え27人、学校推薦型選抜では初年度の25人から1名減の24人となっており、初年度と比較して入学者が約1.5倍に増加した。</p> <p>また令和6年度は、高校生の理工系志望者を増やす目的で国が実施している高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）に採択された北信越5県の高校（石川県13校、富山県13校、福井県10校、新潟県18校、長野県18校）を中心に「情報Ⅱ」「総合的探究の時間」のサポートに関する高大連携を進め、DX授業、教員研修等の取組を進めた。それらの高校での情報教育のサポート活動を継続的に進め、高校との結びつきを強めることで、オープンキャンパス等の本学主催の取組への参加を促すとともに、柔軟に生徒個別の進学相談に対応する地盤を構築し、今後の学生確保を確実なものとする取り組みを行った。</p> <p>さらに、入試広報部職員と情報工学部教員がDX採択校以外へも積極的に訪問し（令和6年度計123回訪問）、新学部の教育や卒業後の就職に関する説明を高校の教員にすることで、新学部の認知度を高めることに努めた。ここでは、特に本学の立地する石川県に加え、通学可能範囲の富山県、福井県、新潟県、長野県の高등학교に対し、本学が同地域における数少ない純粋な理工系の学部のある私立大学であり、成長分野であるデジタルを中心にすえ、AI（人工知能）などの情報技術を駆使してDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材を養成すること、そして、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を社会に多く輩出できることをアピールした。また、北信越を中心とした高大連携の強化を意識し、本学及び本学科の教育内容を効果的にアピールできるよう配慮する方向で、広報活動の見直しを行った。ここでは大学パンフレットやホームページの見直し（https://www.kanazawa-gu.ac.jp/academics/information-engineering/）はもとより、本学の手厚いサポート体制を売りに差別化を図り、他県や競合校へ流れている学生が本学を受験してくれるよう心掛けた。</p> <p>令和7年度も、引き続き上記の活動を継続している。今年度の入試広報部職員と情報工学部教員の高校訪問により、本学の情報工学部の認知度が令和6年度より確実に高くなっていることを実感している。また、令和6年度のDXハイスクールで各高校で対象としていた高校生は主に2年生や1年生であったことより、その効果が本場に現れるのは今年度の入試からだと考えている。令和6年度の取り組みを継続することにより、入学定員の確保を確実にする計画である。</p>

大学名	金沢学院大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	810	910	910																	
		入学者数	人	812	775	829																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																	
		入学者数	人	***	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	810	910	910																	
		入学者数(B)	人	812	775	829																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.00	0.85	0.91																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	3159	3370	3520																	
		編入学定員	人	85	90	90																	
		在籍者数(D)	人	3375	3313	3286																	
		編入学者数	人	37	42	41																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	0.98	0.93																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定-1年	選定	開設			完成年度									
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		54,661	55,384	38,239	135,238	58,346	39,180	40,353												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	56,130
本事業による助成金の額(F)	千円	1,040,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	82,130

特記事項